



須田 武志さん(79歳・大橋四丁目)

県内の高校教諭として38年間勤務。定年退職後は、平成14年から15年間、保護司として、罪を犯した人々の立ち直りを支援する更生保護と犯罪予防に尽力され、平成29年に法務大臣賞を受賞。「ボクが小学生だったころのお話」を令和2年5月に自費出版。高校教諭時代にはバスケットボール部の顧問として、25回チームを全国へ導いた。その経験を活かし、現在小学生や大学生の指導、ボランティア活動など多岐にわたり活動。

「ボクが小学生だったころのお話」

幼少期の戦時中の話から戦後の暮らし、教師になるまでを書いた自伝です。

戦時中はまだ4歳ぐらいでしたが、大阪から福井方面へ琵琶湖の上空を飛んでいくB29の姿や空襲警報が鳴り響く中、家族で防空壕に飛び込んだことなどを鮮明に覚えていきます。

戦争が終わってももちろんすぐに生活が元に戻るわけではなく、食糧難におちいるなど苦しい生活が続いていました。そのような中で教師を目指すきっかけとなる出来事があり、そこから教師になるために過ごした学生時代や、教師になってから話も書いておられます。

自伝出版の動機

戦後を共に過ごした7歳年下の弟が体調を崩したことをきっかけに「弟が生きている間に弟の生まれる前の戦時中の記憶と、共に生き抜いた戦後の生活や昔の思いを記録として残したい」と思い、執筆を始めました。

また、小学生を相手にバスケットボールの指導をする中で、自分が子どもだった頃との物事の考え方の違いを感じるようになったこともきっかけです。

現代の子どものために伝えたいことがいま手元にあるものを大切にしたい、ということでした。

現代は戦時中や終戦直後と違って、ものがあふれていて、食べ物

も日用品もあって当たり前時代です。例えば、戦時中は醤油や米すら十分になかったため、隣近所によく借りに行ったものです。もちろん私の家が何かを貸すこともありましたが。

このように私たちが子どもだったころに比べると現代は非常にぜいたくな暮らしができています。戦時中や終戦直後のような切り詰めた質素な暮らしをするべきということではありませんが、まだ使えるようなものをすぐに捨てたり、次々に新しいものを買ったりするのはなく、今手元にあるものを大切にしながら暮らしてほしいと思います。



▲須田さんの指導する葉山ミニバスケットボールクラブ
(8月29日 滋賀レイクスターズのコーチによるスポーツ教室)

広報りっとう No.981 2020 10・1
発行 / 栗東市役所
URL / http://www.city.ritto.lg.jp/
〒520-3088 滋賀県栗東市安養寺一丁目13番33号
☎077-553-1234 (代表) 077-554-1123 (代表)

軽費老人ホーム 入居者募集中

豊富な経験と実績が
あなたの幸せな老後を
しっかりサポートします

今がチャンス!
夫婦部屋・個室とも空いています。

体験利用・ショート利用可
60歳から入居可

社会福祉法人 八起会
石部ケアハウス ☎0748-77-0025
〒520-3112 湖南市丸山4丁目5番1号 ※お気軽にお電話ください。
http://www.hachikikai.com FAX 0748-77-0370

有料広告 募集中

広報りっとうに
広告を出しませんか?

「広報りっとう」は市内約26000戸に毎月直接配布しています。
お店や、教室などのPRにお役立てください。

広告料(1号1枠) 本文30,000円
お知らせ版20,000円(制作料を含みます)

規格 縦55mm×横85mm、モノクロ
※詳細と空き状況は、市HPでご確認ください

問合せ…秘書広報課 TEL551-0641 FAX553-1280

有料広告掲載のお申込み・お問合せは秘書広報課 ☎551-0641 FAX553-1280へ(掲載料金:本文最終ページ:1枠30,000円)
掲載内容のお問合せは、直接広告主へ。内容に関する一切の責任は広告主に帰属し、市が推奨するものではありません。